

イーストスプリング・アジア・インカム・プラス

【愛称:アジアドリーム】

追加型投信／海外／資産複合

第101期(決算日 2015年9月15日)
 第102期(決算日 2015年10月15日)
 第103期(決算日 2015年11月16日)
 第104期(決算日 2015年12月15日)
 第105期(決算日 2016年1月15日)
 第106期(決算日 2016年2月15日)

作成対象期間(2015年8月18日～2016年2月15日)

第106期末(2016年2月15日)	
基準価額	7,911円
純資産総額	217百万円
第101期～第106期 (2015年8月18日～2016年2月15日)	
騰落率	△12.0%
分配金合計	90円

(注)騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「イーストスプリング・アジア・インカム・プラス」は、2016年2月15日に決算を行いました。

当ファンドは、主として日本を除くアジアの債券および株式を主な投資対象とする投資信託証券に投資を行い、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。

当作成期につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記【お問い合わせ先】ホームページアドレスにアクセス⇒
 上部「運用状況」のタブを選択⇒「運用状況一覧」ページを
 表示⇒当ファンド記載の中にある「運用報告書(全体版)」を
 選択

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

【お問い合わせ先】

電話番号:03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

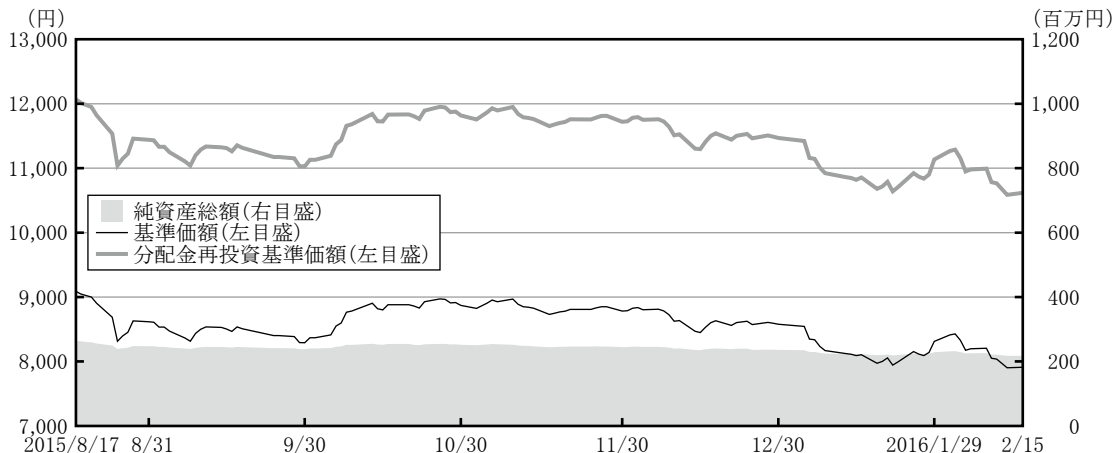
ホームページアドレス: <http://www.eastspring.co.jp/>

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

運用経過

基準価額等の推移について(第101期～第106期:2015年8月18日から2016年2月15日まで)



第101期首	9,088円
第106期末	7,911円(既払分配金90円)
騰落率	△12.0%(分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額の主な変動要因

中国の景気減速懸念や原油安を背景に新興国のみならず先進国の経済にも不透明感が強まり、アジアの株式市場が軟調に推移したことや、為替市場ではリスク回避姿勢の強まりから円高が進んだことが基準価額下落の要因となりました。

1 万口当たりの費用明細

項目	第101期～第106期 2015/8/18 ～2016/2/15		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	57円	0.661%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 作成期間の平均基準価額は、8,575円です。
(投信会社)	(23)	(0.269)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(32)	(0.376)	交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	18	0.206	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(13)	(0.151)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.016)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他1)	(3)	(0.039)	目論見書及び運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
合計	75	0.867	

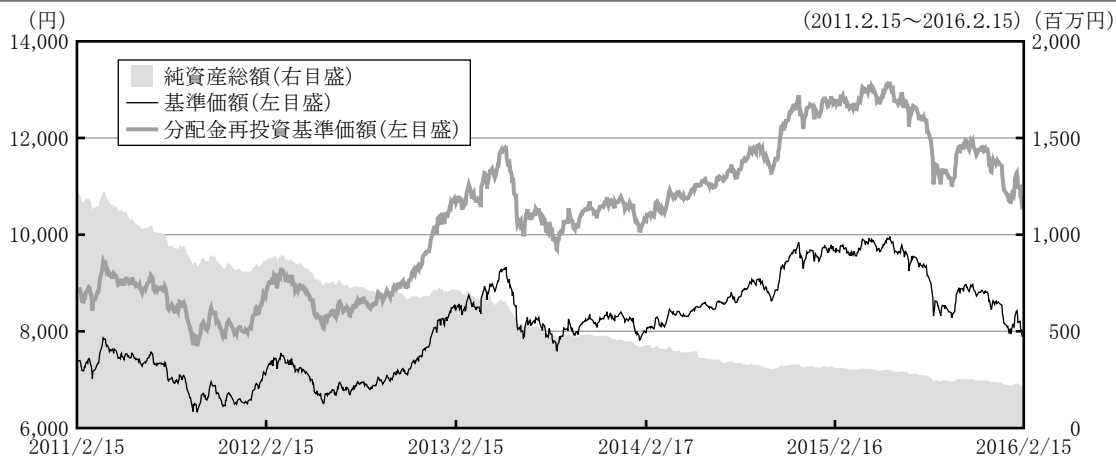
(注1) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様が利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

決算日	2011/2/15	2012/2/15	2013/2/15	2014/2/17	2015/2/16	2016/2/15
基準価額 (円)	7,341	7,158	8,452	7,976	9,679	7,911
期間分配金合計(税込み) (円)	—	180	180	180	180	180
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	0.0	21.0	△3.6	23.8	△16.6
純資産総額 (百万円)	1,214	863	710	426	312	217

投資環境について

○海外債券市況

アジア債券市場は、当作成期初から期前半にかけて中国の景気先行き懸念や商品価格の下落を背景にリスク回避の動きが見られる中、概ね落ち着いた動きとなりました。特に2015年10月は米国の年内利上げ観測の後退により堅調な推移(利回りは低下)となりました。しかし、11月中旬以降は米国の景気指標の改善を受けて年内利上げ観測が高まり、米国債につられる形でアジア債券も弱含み(利回りは上昇)しました。12月の米国の利上げ決定後は大きな波乱もなく落ち着いた動きとなりましたが、年明けから世界的にリスク回避姿勢が強まり、米国債など安全資産への逃避が見られる中、アジア債券市場も米国債につられる形で堅調(利回りは低下)となりました。日欧の中央銀行による緩和姿勢も追い風となりました。

○海外株式市況

アジア株式市場は、当作成期初から2015年年末にかけて米国の利上げ開始時期を巡る憶測に影響を受けました。2015年10月は利上げ開始の後ずれ観測から株価は上昇したものの、翌11月には年内利上げ観測が高まって下落しました。結局、12月に米国は利上げ開始を発表しましたが、利上げの速度は緩やかになるとの期待から年末にかけて一時反発する局面もありました。2016年に入ってから中国の景気減速懸念に加え、原油価格下落の影響で産油国が投資資金を引き上げるとの懸念から株価は下落しました。欧州の追加緩和期待などを受けて一時反発したものの、2月には米国など先進国経済に対する不透明感を背景に世界的にリスク回避姿勢が強まり株価は下落しました。

○為替市況

アジア通貨は米ドルに対してまちまちな動きとなりましたが、世界的なリスク回避姿勢の強まりから円が上昇したため、対円では概ねアジア通貨が下落しました。

ポートフォリオについて

○当ファンド

当ファンドは基本配分に従い、「イーストスプリング・アジア・ソブリン・ファンド(適格機関投資家専用)」を通じてアジア債券に7割程度、「イーストスプリング・インベストメンツ - アジアン・エクイティ・ファンド(以下「アジアン・エクイティ」と言うことがあります。))を通じてアジア株式に3割程度の投資を行いました。

○イーストスプリング・アジア・ソブリン・ファンド(適格機関投資家専用)

イーストスプリング・アジア・ソブリン・オープン マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を除くアジアの政府、政府機関および国際機関の発行する現地通貨建債券に投資を行い、安定的な利子収入の確保および中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行いました。当作成期は、インフレ率の低下から2016年1月に政策金利を下げたインドネシアの債券の保有が最もプラスに寄与した一方で、2015年11月に中央銀行が金融緩和に否定的な姿勢を示したことで債券価格が下落したフィリピンの保有がマイナスに作用しました。

○アジアン・エクイティ

当作成期の投資行動としては、ポートフォリオの特性を大きく変更するような銘柄の入替えは行いませんでした。国・地域別では、世界的な金融緩和の環境下、期前半に堅調に推移した韓国株、経済指標の好転や利下げが好感されたインドネシア株の保有がプラスに寄与しましたが、景気減速懸念を背景に大幅に下落した中国株の保有はマイナス幅を大きくしました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(1万口当たり、税引前)

項目	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期
	2015年8月18日 ～2015年9月15日	2015年9月16日 ～2015年10月15日	2015年10月16日 ～2015年11月16日	2015年11月17日 ～2015年12月15日	2015年12月16日 ～2016年1月15日	2016年1月16日 ～2016年2月15日
当期分配金 (円)	15	15	15	15	15	15
(対基準価額比率) (%)	0.176	0.170	0.171	0.177	0.185	0.189
当期の収益 (円)	10	15	7	9	10	8
当期の収益以外 (円)	4	—	7	5	4	6
翌期繰越分配対象額 (円)	165	174	167	161	157	150

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

○当ファンド

今後の運用方針につきましては、原則として基本配分に従い、「イーストスプリング・アジア・ソブリン・ファンド(適格機関投資家専用)」を通じてアジア債券に7割程度、「アジア・エクイティ」を通じてアジア株式に3割程度の投資を行っていく予定です。

○イーストスプリング・アジア・ソブリン・ファンド(適格機関投資家専用)

中国の景気先行き懸念などで2016年年初から市場の変動性は高まっており、今後も注意が必要であると考えています。しかし、世界的に穏やかな経済成長と低インフレの環境下で、債券市場におけるリスクは限定的であり、市場の調整局面では割安な水準で債券を組入れる好機と考えています。利回りに魅力のあるインドとインドネシアについては、引続き保有比率を高め維持していく方針です。一方、韓国については目先の利下げの可能性は低いとみていることや、10年債の利回りが史上最低水準となっていることなどから、現在の価格は割高とみえています。

○アジア・エクイティ

アジア株式市場は今後も中国政府や中国本土株式市場の動き、加えて原油価格の動向などを背景に神経質な展開が見込まれます。米国は利上げに踏み切りましたが、日欧などの金融緩和の環境下において、アジア各国はインフレ率が比較的低位に落ち着いており、金融緩和に動きやすい状況にあるといえます。また、足元のアジア株式市場は過去の水準と比較して割安な状態にあるとみています。引続き割安な銘柄を中心としたポートフォリオの構築を行ってまいります。

お知らせ

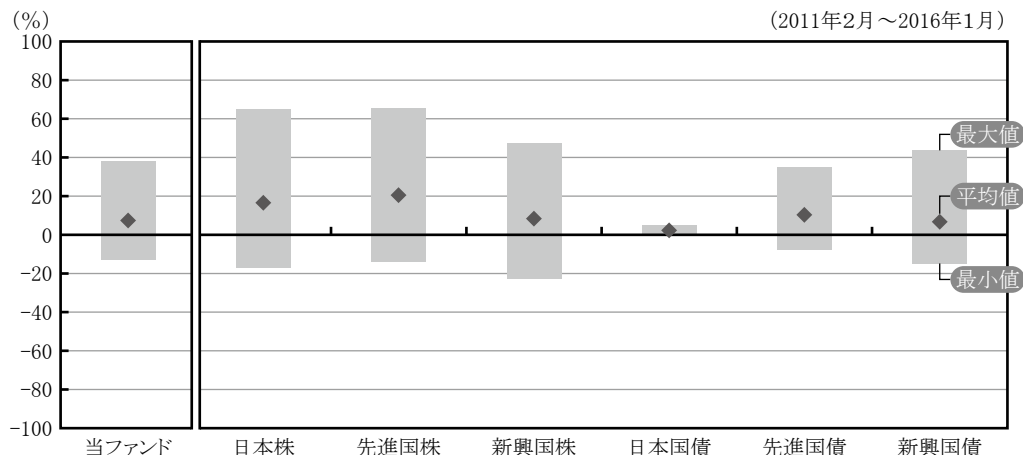
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
信託期間	約10年間(2007年3月30日から2017年3月15日まで)
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指してファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行います。
主要投資対象	外国投資法人「イーストスプリング・インベストメンツ - アジアン・エクイティ・ファンド」(米ドル建て)のクラスJ投資証券およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング・アジア・ソブリン・ファンド(適格機関投資家専用)」の受益証券(振替受益権を含みません。)を主要投資対象とします。
投資制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。
分配方針	原則として毎決算時(毎月15日(休業日の場合は翌営業日))に、主に配当等収益から安定的に分配を行うことを目指します。また、売買益等がある場合は、これを付加して分配を行う場合があります。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないこともあります。

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(%)	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	7.4	16.6	20.5	8.4	2.3	10.3	6.7
最大値	38.2	65.0	65.6	47.3	4.5	34.9	43.7
最小値	-12.8	-17.0	-13.7	-22.9	0.4	-7.5	-15.0

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2011年2月から2016年1月の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<各資産クラスの指数>

日本株: 東証株価指数(TOPIX) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債: JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

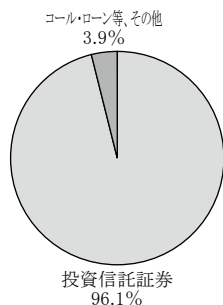
○組入ファンド

(組入銘柄数:2銘柄)

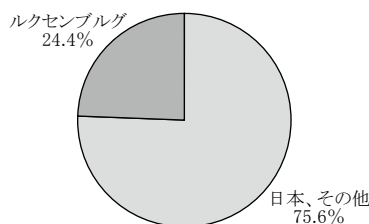
ファンド名	第106期末 2016年2月15日
イーストスプリング・アジア・ソブリン・ファンド(適格機関投資家専用)	71.8%
イーストスプリング・インベストメンツ - アジアン・エクイティ・ファンド	24.4%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

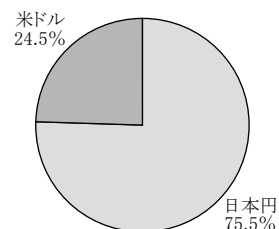
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

純資産等

項目	第101期末 2015年9月15日	第102期末 2015年10月15日	第103期末 2015年11月16日	第104期末 2015年12月15日	第105期末 2016年1月15日	第106期末 2016年2月15日
純資産総額	244,361,831円	252,094,391円	244,274,418円	235,333,686円	223,054,511円	217,831,116円
受益権総口数	287,337,359口	286,452,755口	279,761,069口	278,577,178口	275,223,812口	275,352,091口
1万円当たり基準価額	8,504円	8,801円	8,732円	8,448円	8,104円	7,911円

* 当作成期中(第101期～第106期)において追加設定元本額は768,239円、一部解約元本額は16,052,383円です。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング・アジア・ソブリン・ファンド(適格機関投資家専用)

(計算期間 2015年8月12日～2016年2月12日)

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

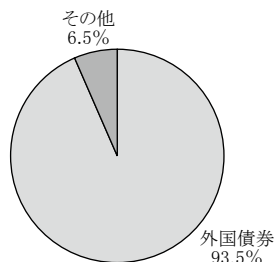
項目	金額
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	13円 (12) (0) (1)
(b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	13 (11) (2) (0)
合計	26

○組入上位10銘柄

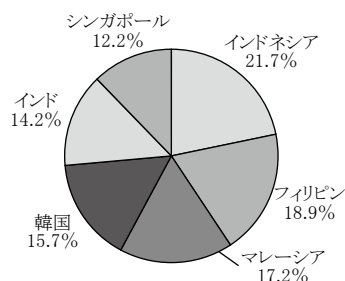
(組入銘柄数:75銘柄)

	銘柄名	種別	国・地域	比率
1	8.750% PHILIPPINE GOVT	国債	フィリピン	3.8%
2	8.070% INDIA GOVT	国債	インド	3.6%
3	4.125% PHILIPPINE GOVT	国債	フィリピン	2.7%
4	8.300% INDIA GOVT	国債	インド	2.5%
5	8.150% INDIA GOVT	国債	インド	2.3%
6	5.000% KOREA TREASURY	国債	韓国	2.2%
7	4.250% KOREA TREASURY	国債	韓国	2.2%
8	5.750% KOREA TREASURY	国債	韓国	2.2%
9	7.875% INDONESIA GOVT	国債	インドネシア	2.1%
10	12.800% INDONESIA GOVT	国債	インドネシア	2.1%

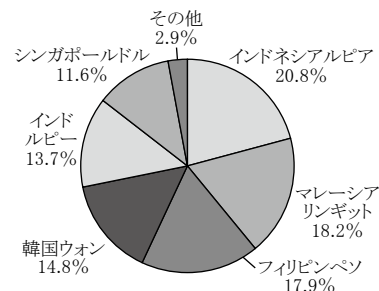
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので、費用項目の概要および注記については、2ページの「1万口当たりの費用明細」の記載をご参照ください。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2016年2月12日現在のものです。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は、組入ファンドが投資対象とするマザーファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング・インベストメンツ - アジアン・エクイティ・ファンド

(計算期間 2014年1月1日～2014年12月31日)

○基準価額(1口当たり純資産価格)の推移



○組入上位10銘柄

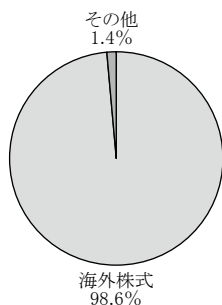
(組入銘柄数:62銘柄)

銘柄名	業種	国・地域	比率
Samsung Electronics Co Ltd	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	韓国	6.8%
Taiwan Semiconductor Manufacturing	半導体・半導体製造装置	台湾	4.2%
China Construction Bank	銀行	香港	3.7%
China Mobile Ltd	電気通信サービス	香港	3.4%
Bank of China Ltd	銀行	香港	3.1%
Sun Hung Kai Properties	不動産	香港	3.0%
China Merchants Bank	銀行	香港	2.9%
Infosys Ltd	ソフトウェア・サービス	インド	2.8%
Hyundai Motor Co	自動車・自動車部品	韓国	2.6%
KT Corporation	電気通信サービス	韓国	2.3%

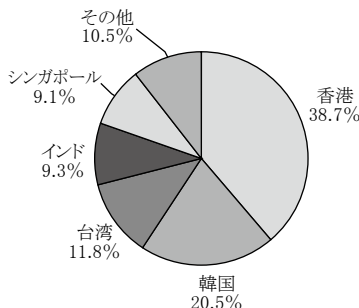
○1万口当たりの費用明細

イーストスプリング・インベストメンツ - アジアン・エクイティ・ファンドのAnnual Report (監査済み)には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

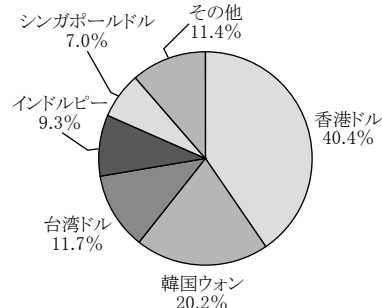
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの(監査済みおよび同時点の関連データを含む)を使用しています。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

(注3) 組入上位10銘柄、国別配分の国・地域は、株式が上場されている主要な金融商品取引所の所在国・地域を記載しています。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

指数に関して

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- 東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- MSCI指数(MSCIコクサイ・インデックス、MSCIエマージング・マーケット・インデックス)はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- NOMURA-BPIは、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。
- シティ世界国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権は、Citigroup Index LLCに帰属します。
- JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)はJ.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。